

平成30年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人 たつみ会
認定こども園 柱本保育園こども未来学舎

1. 本園の教育・保育目標

- ・清く正しく明るく強くを教育・保育スローガンに豊かな感性・たくましい心と体づくりをすすめます。
- ・保幼小中一貫教育に鑑み、認定こども園の教育・保育で初等教育接続に向けた知的好奇心を育みます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・自然体験やエコ活動を通じた学びで得た好奇心を大切に、思考力・判断力・表現力を育むことをめざす。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況と評価	評価
・自然体験やエコ活動を年間カリキュラムに取り入れ、計画的に推進する	・3～5歳児を主体に未満児も活動に参加できるように配慮した内容で、前年度から見直し継続した活動計画を実施した。 具体的には、HPに公開している園内の取り組みの様子を公益財団法人日本環境協会こどもエコクラブで発表したり他団体との交流をした。特に園内の取り組みを壁新聞で応募発表したところ、全国事務局から「エコまる賞」を受賞し、園内で全国事務局主催の授賞式やエコ教室がおこなわれたことは貴重な経験で有り、評価できる。	A
・子どもの資質・能力を育むために子どもが主体的に取り組める活動にする	・子どもが、気づく分かる、考える工夫する、意欲をもつ というステップをふみながら活動することを目標とした。園内研修の実施や職員の連携などを通して目標とする活動に向けた体制を整えたところ、子どもの姿としては、最初は職員に頼る姿が見られたが、子どもの気づきや他者の助言を得て小さなグループ活動に発展していった。対象の変化や混乱などを経て、個人差はあるが、協同性の芽生えや興味、意欲を示す様子が見られた。今後、さらなる活動の継続、発展に合わせた体制が重要課題となる。	C
・子どもの活動の様子や成果を保護者だけでなく、三者間でわかるように工夫をする	・クラスだよりや日々のタブレット端末による画像広報また個別にはポートフォリオ等の作成を行い、子どもと大人(保護者と職員)の三者間で振り返りのできる工夫をした。特に、壁新聞や活動の過程がわかるドキュメンテーションを展示して相互理解を深めることで気づきや改善点の共通認識ができた点を評価する。	B

4. 今後取り組むべき課題

- ・昨年度の振り返りを年度始めの計画に生かし、他のクラスの職員や栄養士・看護師などにも周知して活動を進めることで、職員間の連携や体制作りができるようにする。また、計画の見直し対応が年度途中に遅滞なく進むようにする。
- ・子どもの活動の様子をドキュメンテーションに現わすことで、他の子どもと大人(保護者と職員)の三者間や連携職員以外の関係者に理解しやすくなるよう展開していく。

※評価 A:十分達成された B:達成された C:取り組まれているが成果が十分でない D:取り組みが不十分